



(佐賀)

姉川城跡は、神埼町の南西部の標高約三～四mの低湿地に立地している。特に、神埼町やその南側に隣接する千代田町においては、低湿地においてクリークと呼ばれる濠が多く発達しており、このようなクリークに囲まれた大小の島が多数存在している。姉川城跡は、このような濠に囲まれた館跡と考えられ、この他にも神埼町の低湿地においては、横武城跡や柳郷城跡・本告

佐賀・姉川城跡

あねがわじょうあと

- 1 所在地 佐賀県神埼郡神埼町大字姉川
- 2 調査期間 一九八九年(平一) 一月～一九九〇年三月
- 3 発掘機関 神埼町教育委員会
- 4 調査担当者 緒方祐次郎・河野史郎
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 一四世紀～一七世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

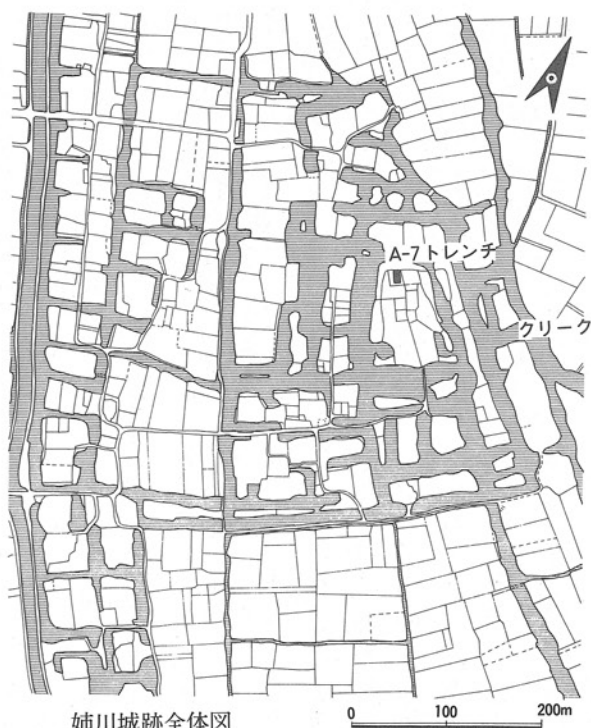
牟田遺跡など、数多くの同様の遺跡が分布している。こうした状況は隣接する千代田町においても同様で、直島城跡をはじめとして、同様の遺跡が多く存在している。

姉川城跡は、国庫補助事業の重要遺跡確認調査として、神埼町教育委員会が、一九八九年より七カ年計画(調査六カ年・整理報告一カ年)で実施してきた。調査の性格上、限られた面積の発掘ではあったが、広大な対象地区内における遺構の分布状況やその概観などを把握することができた。

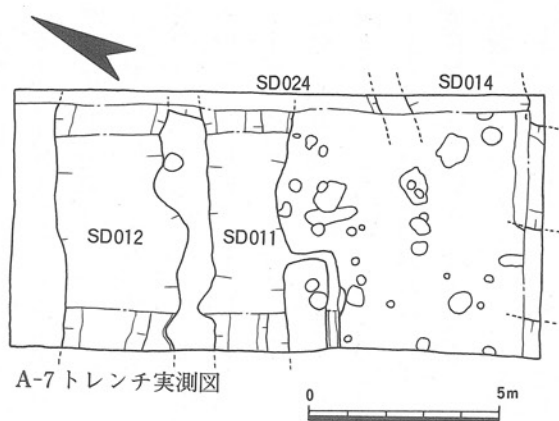
調査は、数多く存在する大小の島にトレンチを設定して行なっているが、今回報告する木簡の出土したA-七トレンチは、一九八九年度に実施した調査地点の一つである。このトレンチを設定した島は、「タチ(館)」の地名が残っており、南北一六m、東西幅が北辺で五〇m、南辺で八六mの台形プランを呈している。一帯の島群の中ではその規模はとりわけ大きく、その位置や形状から、姉川城の主郭にあたるものと考えられている。この島の北・東・西の三辺には、現在は開墾によって消失しているが、高さ二m程度の土塁を構えていたらしく、現在もその位置は地割りに残っている。A-七トレンチは、島の北西端付近に設定しており、調査の結果、数枚の遺構面や、それに伴う溝や小穴などを検出した。掘立柱建物などの施設は、A-七トレンチよりさらに南側に設定したトレンチに多く分布しており、特に一六世紀中・後葉にかけての遺物とともに、三

間×七間の大型建物跡を中心とした建物群などが検出されている。木簡は、A-7トレンチの東端を部分的に掘り下げたトレンチの下層において確認された、溝状の遺構SD〇二四から出土している。この遺構からは、土師器の杯や皿などの土器類や、下駄、杭状・板状の木製品などが多量に出土しており、土器類は一四世紀代の特徴を示している。

8 木簡の釈文・内容



姉川城跡全体図



A-7トレンチ実測図

(1)



(178)×(29)×4 081

やや厚みのある板材の片面に、墨書の痕跡が残るが、判読は困難な状況である。厚さは全体的にほぼ均一であり、墨書の記されている面、及びその裏面も平滑に処理されている。また、上端及び片側の側面に面取りがされているほかは欠損しており、本来の形状は不明であり、その用途についても同様である。

A-7トレンチにおいては、このSD〇二四の上面には整地層と

考えられる層が確認されており、この整地作業後に新たに、SD〇一やSD〇一二などの溝状の施設などが掘り込まれたものと考えられる。これらのSD〇一やSD〇一二などの遺構からの出土遺物は、一六世紀代の特徴を示しており、姉川城における新しい段階の施設であると考えられる。この下層にあたる、SD〇二四が検出された層からはこの他にも、SD〇一四などの溝状の施設が検出されており、その詳細は明らかではないが、初期の段階においては、多数の小区画が存在していたことを示唆している。これらの小区画群の時期は、出土遺物よりおおむね一四世紀の前葉が上限と考えられ、その後一六世紀代にかけて数回の盛土整地が行なわれて、このような小区画の統合がなされ、現況の館のアウトラインが成立したものと考えられる。今後整理作業により、より詳細な年代設定やそれに伴う施設の性格を把握していく必要がある。

9 関係文献

網野善彦・石井 進編『中世の風景を読む 七』（新人物往来社 一九九五年）

（桑原幸則）

佐賀・中園遺跡Ⅲ区

なかぞの

- 1 所在地 佐賀県神埼郡神埼町大字鶴
- 2 調査期間 一九九一年（平3）九月～十一月
- 3 発掘機関 神埼町教育委員会
- 4 調査担当者 河野史郎
- 5 遺跡の種類 集落跡（官衙の周辺にあたる）
- 6 遺跡の年代 平安時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

中園遺跡は、神埼町の東端に位置する吉野ヶ里丘陵の西側に形成された、標高約八～一〇mの低位段丘上に立地している。調査地は、



（佐賀）

馬郡集落の南側に位置しており、その東方約三〇〇mの地点に「大嶋一斗二升」と記された木簡が出土した吉野ヶ里遺跡Ⅳ区（本誌第九号）、北西約六〇〇mの位置に、木簡一点が出土した志波屋四の坪遺跡（本誌第一〇号、吉野ヶ里遺跡群）、